

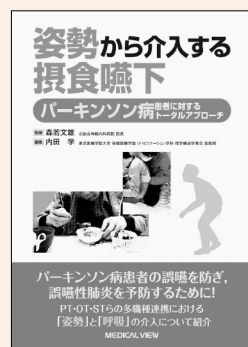
# 書評

## 姿勢から介入する摂食嚥下 パーキンソン病患者に対する トータルアプローチ

森若文雄（監修），内田 学（編集）

B5判・256頁

定価：本体4,500円＋税  
メジカルビュー社刊，2020年



〔評者〕山田 実 筑波大学人間系

『長年，専門職として貢献できることを追求し，多職種連携の重要性や困難さを感じながら，摂食嚥下と向き合ってきたからこそ辿り着いた一冊』，私が本書を拝読させていただいた際の印象です。『姿勢』というコメディカルが介入可能な視点から，臨床現場で培った経験と学術的に裏打ちされた情報をもとに，パーキンソン病患者の摂食嚥下に対するアプローチについてまとめられています。また，臨床現場で観察されるさまざまな事象を単一ではなく，多職種による複数の側面より考察されており，多職種連携によって高められる相乗効果を実感できる内容となっています。著者らのもつ数多くの経験と数えきれない苦労がエッセンスとなり，表面的ではない奥深さを感じられる一冊です。

\*

『姿勢と摂食嚥下』という決して近く感じることでできない2つのキーワードですが，本書を読み進めることで切り離すことのできない2つのキーワードであったことに気づかれます。『療法士だから』できないことが多い摂食嚥下の領域ですが，『姿勢』というキーワードを介すことで，『療法士でなければ』できないことも多い摂食嚥下に変化します。

本書には，『姿勢』を味方にするためのコンテンツが多く含まれており，これまでにない新たなヒントを提供してくれます。独創的な切り口で，『姿勢』と『摂食嚥下』を結びつけた唯一無二の一冊です。

\*

「自分でもやれるかも」，「今日から実践してみよう」，「隣のスタッフとも共有しよう」，このように読者

の行動変容を引き起こす，やる気にさせてくれる構成になっています。

本書は，パーキンソン病の概要から始まり，嚥下関連に関する基本的情報，さらには臨床場面で遭遇するさまざまな現象の解釈・対応とダイナミックに展開されていきます。特に，臨床場面での測定・評価およびアプローチについては実際の症例写真やイラストなどが数多く掲載されており，パーキンソン病患者の摂食嚥下リハビリテーションの現場に立ち会っているような，臨場感溢れる紙面となっています。

理学療法士や作業療法士，言語聴覚士，看護師などパーキンソン病のリハビリテーションにかかわる方，養成校の教員，学生など，さまざまな方に手にとっていただきたい一冊です。